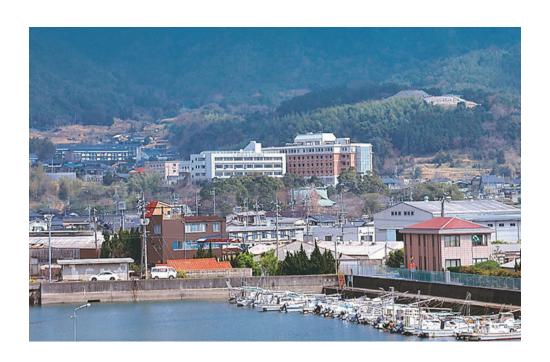
山中高院協会全報 2016 10月号 No.53

- ●発行日 平成28年10月1日 ●発行所 一般社団法人山口県病院協会 〒753-0814 山口市吉敷下東三丁目1番1号 ●電話 083-923-3682 ●FAX 083-923-3683

- ●発行人 木下 毅
 ●印刷所 大村印刷株式会社
 ●メールアドレス info@yha.or.jp
 ●ホームページ http://www.yha.or.jp



医療法人恵愛会 柳井病院

 $\mp 742 - 0021$

山口県柳井市柳井1910番地1

電話 0820-22-1002

FAX 0820 - 22 - 1103

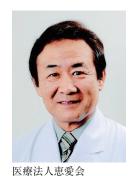
URL: http://www.keiaikai.jp/www/

CONTENTS (目次)

会員病院紹介	2ページ
協会役員コーナー	3ページ
病院スタッフコーナー	4ページ
研修会報告	
医療懇話会報告	
医療経営講習会報告	
諸会議報告	7ページ
お知らせコーナー	8ページ

会員病院紹介

病院長挨拶



柳井病院 理事長 中岡 清人

医療法人恵愛会は、亡父中岡秀男が山口県下の精神科医療に役立ちたいと故郷である柳井市に1956年(昭和31年)に開設して以来、常に地域医療の向上に努めてまいりました。

そして、今では精神障害の予防から社会復帰まで、患者さんやご家族の思いを大切に するチーム医療で県下有数の規模の病院として広く知られるようになりました。

今後は少子化・高齢化の社会環境に対応できるよう高齢者のケア、そして小児の治療教育等にも力を注いでゆきたいと思っています。

亡き父が大切に育ててきた「患者さんへの思いやり」の精神をしっかりと受け継ぎ、 患者さんの心のやすらぎをさらに充実したものにするため、山と海の伸びやかな自然環境を活かした理想の病院づくりを進めてまいります。

これからも地域医療の息吹となれますよう、これまで以上に尽力してまいりますので、皆様のご指導ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

〈恵愛会の歴史、概況・特徴〉

<誕生から発展へ>

1954年に柳井市が誕生して2年後、1956年柳井市の市街地から東へ少し離れた柳井港が一望できる高台に柳井病院が中岡秀男(初代院長)によって開設された。

単科の精神科病院として病床数34床、職員9人からスタートし、増床と改築を重ね発展してきた。

1968年に「医療法人恵愛会柳井病院」と法人化し、1982年には332床まで増床した。時代のニーズとともに地域の中核病院として定着し発展を遂げてきた。

<再生と新しい基礎づくり>

1990年初代院長の突然の他界により病院運営の求心力が失われた。しばし方向性の見出せない低迷期を迎えた。折しも精神科医療に関する法改正が相次ぎ、ハード・ソフト両面から抜本的に見直さざるを得ない状況となっていった。1998年に院長として就任した私は、この困難に直面し、地域精神医療の拠点病院として築いてきた先人達の業績を引き継ぎ、より良い発展を目指すことを決意し、皆とともに勇気と信念を持ってハード・ソフトの全面的な改革に臨むこととなった。

2000年11月に丘の上の欧風ホテルをイメージした念願の新病棟(地下1階、地上5階298床)が完成。どっしりとしたたたずまいと優しい色調が訪れる人々を温かく包み、ゆったりとした気分で療養できる環境が出来上がった。それは当院の「患者さんへの思いやり」「優しく導け心の病」という理念のもと、「患者さんにもう一つ家庭を提供しよう」という考え方がイメージとなって外観にも現れたものと思っている。

翌年には本館の全面的リニューアルで外来部門、デイケア、作業療法室、各種アメニティ施設の新設や改革がなされ、新しい人材もぞくぞくと加わり「フォア・ザ・チーム」を合言葉に2001年に再生の基礎が作られた。

<役割の拡大に伴う更なる発展>

2004年、精神保健福祉改革ビジョンにより、「入院医療中心から地域生活中心へ」という基本的考えが示され、当院でも前後して生活訓練施設(宿泊型)、精神科訪問看護、外来作業療法の導入、大規模デイケアへの変更、精神障害者生活支援センターの開設等、患者さんの退院促進と地域生活の支援が本格化してきた。これは病院開設以来の地域住民の皆様や関係機関のご理解とご協力なくしてはあり得ないものであった。当院では医師、各専門スタッフを中心として地域の方々に対して、健康講座、精神科医療(メンタルヘルス等)の啓発、相談サービスなども積極的に行わせていただくと同時に、夏の納涼祭、年末のもちつき大会等各種の病院行事を患者さんとともに多くの住民の方々に楽しんでいただく等地域との結びつきを深めてきた。

2010年から「精神障害者アウトリーチ推進事業」が本格化していく中で、患者さんとその家族を含めた生活支援のため、当院のアウトリーチサービス(訪問看護等)を充実するとともに、2014年からは小児神経発達専門医もチームに加わり、まさに小児から高齢者認知症まで、また内科専門医による合併症の治療等も可能になった。

に加わり、まさに小児から高齢者認知症まで、また内科専門医による合併症の治療等も可能になった。 この瀬戸内山陽路の柳井という気候温暖にして海の明るさ、山の温もりのある自然環境に恵まれた地で、今後も精神障害者の予防から社会復帰、自立に至るまで、当院の基本理念を受け継ぎつつ、各専門スタッフのチーム医療で全人的医療、今後の地域包括ケアシステムとの連携を密にして総合的な医療、看護、介護、福祉活動に大いに地域のために邁進していこうと思います。

協会役員コーナー

山口県地域医療構想に思うこと



医療法人社団愛命会 大田病院 理事長 吉田 延

平成27年4月より協議が始まった「山口県地域医療構想」も本年6月には医療審議会、議会の最終決議がなされ、平成28年7月26日の山口県報に公示されました。一定の手続きを踏んだとはいえ、必要病床数の推計結果は当初行政が策定したものとなんら変わりはなく、10年後までに高度急性期、急性期、慢性期を削減し回復期を増加、差引6,384床の削減を求められ、今後の調整会議の中で新たな段階を踏むことになります。病床機能の分化・連携、在宅医療の推進、医療従事者の確保という3本柱を具体的な施策としておりますが、二次保健医療圏の中の調整、医療圏間の連携を考えれば、不安材料が山積しています。

精神科病院においては、精神疾患が平成25年に追加され5疾病5事業となりました。 高齢化社会における認知症患者の増加(2025年には700万人を超える予測もあります) や社会問題となりつつあるメンタルヘルスなどに、より一層貢献して行かなければなら

ないと思っています。

二次保健医療圏での病院間の連携だけでなく、介護老人保健施設、特別養護老人ホームのみならず老人ホーム、グループホーム等との幅広い連携なくしては、「生涯を通じて健康で安心して暮らせる地域保健医療の確立」は危ういものになります。

最後に、少子化と高齢化の同時進行による年齢別人口の不均衡が引き起こす医療従事者(マンパワー)不足への対応が病院等の存続の鍵となることを認識しながら、今後も地域医療のために連携して頑張りたいと思います。

地域医療構想調整会議を前にして



三田尻病院 理事長 神徳 眞也

今、目の前に一冊の冊子があります。「地域医療構想 平成28年7月 山口県」です。 戦後、国民の健康保持増進に大きな役割を担ってきた「国民皆保険制度」が、日本の 医療を支えてきた世界に類を見ない優れた医療制度であったことは疑いのないところで す。しかし、戦後60余年続いた良き時代と制度にも、経済基調の変化、少子+超高齢社 会、国民の意識や疾病構造の変化、医療技術の進歩等により、医療に求められるものが より高度化、多様化し、その制度にここ10数年大きな陰りが生じてきていたのも事実で す。

そんな中、可決された医療介護総合確保推進法案により、これまで霧の中に隠れていた病床機能分化や地域包括ケアシステムの構築、地域医療ビジョンの策定といった、医療・介護の将来像が、白日のもとに晒されることとなりました。そしてこの医療法の改正に基づき、昨年1年間かけて、県内8医療圏ごとに地域医療構想策定協議会が開催され、地域における医療提供体制の将来あるべき姿を示し、地域にふさわしいバランスの

とれた医療機能の分化と連携の推進を図るため策定されたのが、「山口県地域医療構想」正にこの冊子なのです。 そしていよいよ今年度からは、「山口県地域医療構想」の推進を目的に、地域医療構想調整会議がスタートします。 忘れてはならないのが、「地域包括ケアシステムの構築と費用負担の公平化」の中にある地域医療ビジョンの策 定における都道府県知事の権限を強化する、というものです。従来からあった地域に偏在する「過剰な病床」「過 剰な機能」「不足している機能」といった各機能に対し、関係者が協議を行い、都道府県が必要としている別の 機能に効率的に転換していくというものです。

新たな基金(財政支援制度)の創設と医療・介護の連携強化等々、医療介護の世界が大きく変わろうとしている今こそ、地域における効率的かつ効果的な医療提供体制の確保に努め、これからの地域医療に自院がどう関わり参加していけるか、これからを決定づける重要な時期と考えます。

今後も、患者様を中心とした心の通う医療の実現を目指して努力してまいります。

病院スタッフコーナー

安心して医療業務に専念してもらうために



国立大学法人 山口大学医学部附属病院 安全管 平井 正人

全国の多くの病院では、院内における暴言・暴力の増加により、院内の安全管理を担う警察OBを求めています。私もその一人です。この職を受けるに当たり、まず心掛けたのは、「既に警察官ではなく、警察権もない一職員である。そうした中で、これまでに築いてきたノウハウを活かし、病院スタッフが本来業務に専念出来るように、如何にアシストしていくか」でした。

当院は県内唯一の特定機能病院であるため、患者さんの数も多い分、比例して、暴言・ 暴力的な患者さんの対応も多くあります。

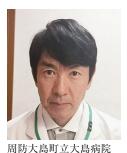
以前迷惑行為のあった患者さんが来院する際は、あらかじめ近くで待機して事案に備え、また、スタッフからの要請があれば現場に急行し、状況判断した上で患者さん個々に合わせた対応をします。場合によっては、別室に移動して言い分をしっかりと聞き、説明して納得してもらうこともあります。

但し、暴言・暴力などが悪質な患者さんに対しては、警察としての経験を生かし、院内での禁止事項や法的根拠を基に、毅然として対応するように努めています。

他にも、医師や看護師などから、患者さんからの苦情への対応相談を受けることもあります。その患者さんの 言動などから、目的は何かを判断して、その人に合った対応要領を助言しています。

院内ラウンドの際に、医師や看護師などから「この前は、有り難うございました。」と声をかけられる度に、 やり甲斐を肌で感じながら日々の業務に励んでいます。これからも病院の一職員として、病院の品位を落とさな い患者対応を心掛け、病院スタッフの期待に応えられるように努めて参りたいと思います。

すべての検査を迅速に



技師長 富田 健治

現在、当院臨床検査科はパートを含む5名体制で検体検査、生理機能検査、そして外 来採血業務を看護科と共に行っています。

朝8:30から外来採血が始まるのですが、外来からの採血検体が届くまでに病棟の朝 採血検体検査をすべて報告できるように心掛けています。

そして、外来からの検体検査は届いてから30分以内で結果を報告できるように準備しています。

健診の検体も結果次第で外来受診を勧めたり、精密検査へ繋げられるのではないかと 考え、迅速に検査し報告しています。

昨年、新たに臨床検査技師による鼻腔・咽頭からの検体採取が法律で認められ、業務 拡大となりました。検体採取の指定講習を修了した12月から、外来・病棟でのインフル

エンザ迅速検査を臨床検査技師が担うことに致しました。

これまでの検体採取は医師に検体を採取してもらい、検査室に持って帰り検査するという流れでした。しかし、 検査技師がすべてを行う方が迅速かつ、医師の手間も取らせません。その結果、患者様の待ち時間の短縮にも繋 がっています。

これからも臨床検査科として、データの正確性は言うまでもありませんが、結果を迅速に診療側へ報告する努力を続けたいと思います。

研修会報告

平成28年度山口県病院初級職員研修会

平成28年7月4日(月)山口県総合保健会館第1研修室において、山口県病院初級職員研修会が開催され、181名の参加があった。 研修会のテーマ・講師は以下のとおり。

【研修会】

テーマ 「山口県の病院の概況」

講 師 山口県病院協会

事務局長 天津 昇次

テーマ 「接遇の心と形…

医療人として、社会人としての基本マナー

講師 株式会社エバルス 吉田 孝子 氏

まず病院協会の天津事務局長より山口県下病院の概況について説明があった。

続いて吉田氏による接遇研修が行われた。参加者たちは、電話応対 や院内での案内など実際の場面を想定したグループワークを通じて、 医療機関のスタッフとして目指すべき目配り・気配り・心配りを学ん でいた。



研修会風景



吉田孝子氏

医療懇話会報告

平成28年7月8日(金)午後4時より山口市湯田温泉ホテルニュータナカにおいて、平成28年度医療懇話会が開催された。山口県健康福祉部から藤井部長ほか11名、山口県病院協会から木下会長ほか18名が出席した。

木下会長と藤井部長の挨拶に続いて、健康福祉部の各課長から平成28年度の事業概要について説明があった。 続く質疑応答では地域医療連携情報システムや医師・看護師などの育成などの諸問題について、県民医療を考え る立場から活発な意見交換が行われた。



藤井部長挨拶



木下会長挨拶



医療懇話会風景

なお、事前に次の質問事項・要望事項等の提出があり、それぞれに県より回答が為された。

・地域包括ケアシステムについて

地域包括ケアシステムはどこが(だれが)構築するのか。また、山口県病院協会がやるべき事はあるのか。

· ICT化について

山口県では医療情報のICT化をこれからどういう方向に持って行くのか。PDCAサイクルを使って今後すすめて行くのか。

医療経営講習会報告

平成28年度 夏季医療経営講習会

平成28年8月26日(金)、山口グランドホテルにおいて平成28年度 夏季医療経営講習会が開催され、140名の参加があった。

テーマ・講師は以下のとおり。

テーマ 「今後の医療政策の方向について

~平成28年度診療報酬改定と山口県の状況を踏まえて~」

講 師 厚生労働省保険局医療課 医療技術評価推進室

室長補佐 國光 文乃 氏

講師の國光氏は、限られた医療資源の効率化・適正化を通じて持続 可能性を高めていくことが今後の重要なテーマであると説明された。

参加者の多くと共に山口県の医療政策を担ってこられた氏が講師と あって、講習会終了後には多くの質問があがり、活発な意見交換が行われた。



國光文乃氏



講習会風景



独立行政法人 国立病院機構 関門医療センター 病院長 林 弘人

~平成28年度夏季医療経営講習会に参加して~

平成28年8月26日に夏季医療経営講習会が開催された。講師には、本年3月まで山口県健康福祉部医療政策課長として多方面でご指導を戴いた國光文乃先生をお招きした。厚労省でご活躍の立場から、まず日本全体の医療の状況について、さらには山口県の現状と問題点、そして平成28年診療報酬改定について、平成30年の医療・介護同時改定を見据えて最新の情報を詳細にご講演戴いた。

日本の医療に関する世界での評価は、医療到達度の総合評価および健康水準において世界第1位(Word Health Report 2000)であるが、人口当たりの病床数が多く、

医療従事者が少ないという特徴がある。今後の医療政策の方向性としては、インプット評価からアウトカム評価へ、また、機能分化や連携に重点を置いた診療報酬改定になっていくとのことである。

山口県においては全国に比べて約10年早く高齢化が進行している(高齢化率31.3%、全国第4位)。また、療養病床が多く(全国第2位)、回復機能が少ないという医療機能の偏在、さらには在宅医療の不足、若手医師の減少といった課題がある。地域医療構想では、医療機関の自主的な取り組みを基本とし、各圏域会議での議論を通じ、基金を活用して推進して戴きたい。

平成28年診療報酬改定はマイナーチェンジであった。一般に、消費税1%はおよそ2.5兆円に相当すると言われているが、増税延期となり、財源という観点からも平成30年改定はかなり厳しいものになると想定されるとのことであった。

諸会議報告

平成28年度 第2回理事会

日 時 平成28年7月22日(金)15:30~17:00 開催場所 新山口ターミナルホテル 【承認事項】

- 1. 医療ガス保安講習会への後援依頼について
- 2. 日本医療マネジメント学会第15回山口県支部学 術集会への後援依頼について
- 3. 平成28年度山口県肝疾患コーディネーター養成 講習会への後援依頼について
- 4. リレー・フォー・ライフ ジャパン2016やまぐ ち美祢への後援依頼について
- 5. 平成28年度病院栄養関係職員医療安全対策研修会について

【協議事項】

1. 平成29年度定時総会の開催日について

【報告事項】

- 1. 平成28年度夏季医療経営講習会について
- 2. 産業医の選任について
- 3. 県行政委員等の推薦について
 - ·山口県死因究明等推進協議会委員 副会長 三浦 修(新任)
 - ·山口県肝炎対策協議会委員 理事 福本 陽平(再任)
- 4. 県各種委員会等の結果報告について 木下会長
 - ·平成28年度第1回山口県医療審議会

(6月6日)

三浦副会長

- ·山口県予防保健協会定例理事会 (5月23日)
- ・山口県看護協会通常総会 (6月19日)

西田理事

・平成28年度山口県公衆衛生協会第1回理事 会・評議員会 (7月7日)

天津事務局長

- ·山口県予防保健協会定例評議員会(6月9日)
- ・平成28年度山口県配偶者暴力相談支援連絡協議会 (6月27日)
- ·平成28年度学校関係者評価委員会(7月14日)
- ·平成28年度第1回教育課程編成委員会

(7月14日)

【その他】

- 1. 都道府県ごとの医療事故調査等支援団体協議会 の発足に備えて
- 2. 消費税問題を要望できる議員リスト作成への協力について

平成28年度 第2回情報管理委員会

日 時 平成28年9月13日 (火) 15:00~17:00 開催場所 新山口ターミナルホテル 【協議事項】

- 1. 10月号の発行について
- 2. 新年号の発行準備について
- 3. その他

平成28年度 第1回診療報酬改定影響度調査検討委員会

日 時 平成28年9月23日(金)14:00~15:30 開催場所 新山口ターミナルホテル

【議 題】

- 1. 平成28年度診療報酬改定影響度調査票について
- 2. 災害時必要物品並びに設備、施設に関するアンケートについて
- 3. その他

平成28年度 第3回理事会

日 時 平成28年9月23日(金)15:30~ 開催場所 新山口ターミナルホテル 【承認事項】

- 1. 「地域研究交流会」後援名義使用のお願い
- 2. 山口県総合保健会館の敷地内禁煙に関する要望 書(案) について
- 3. 第13回山口県ケアマネジメント研究大会への後援依頼について
- 4. 平成28年度病院中堅看護師研修会について
- 5. 平成28年度病院看護師長研修会について
- 6. 平成28年度病院医療事務担当職員研修会について
- 7. 平成28年度病院看護補助者・介護職員研修会に ついて

【協議事項】

- 1. 平成28年度冬季医療経営講習会について
- 2. 産業廃棄物優良化推進フォーラム パネラーの 出演依頼について

【報告事項】

- 1. 平成28年度山口県救急医療功労者知事表彰について
- 2. 県行政委員等の推薦について
 - ·山口県医療審議会委員 会長 木下 毅 (再任)
 - ・山口県救急業務高度化推進協議会委員・幹事 委員 副会長 三浦 修(再任) 幹事 済生会山口総合病院副院長 小野 史朗(再任)
 - ・山口県がん対策協議会がん登録部会委員 理事 竹重 元寛 (再任)
 - ・山口県がん対策協議会 理事 名西 史夫 (再任)
 - ·宇部·小野田地域保健医療対策協議会委員 監事 尾中 宇蘭(再任)
- 3. 県各種委員会等の結果報告について 木下会長
 - · 第91回山口県医療審議会医療法人部会

(7月28日)

天津事務局長

- ・平成28年度優良事業者育成支援事業検討会 (7月21日)
- ·平成28年度男女共同参画推進連携会議

(7月28日)

お知らせコーナー

山口県救急医療功労者知事表彰(山口県病院協会推薦)

多年にわたり、地域救急医療体制の確立に尽力された功績により表彰される山口県救急医療功労者知事表彰は、次の病院に決定し、9月9日山口県庁において伝達されました。

おめでとうございます。

医療法人社団松友会 松本外科病院(理事長 松本 良信)





第15回日本医療マネジメント学会山口県支部学術集会

日本医療マネジメント学会山口県支部学術集会が、山口市で開催されますのでご案内いたします。

テーマ 「チーム医療と医療安全 ―医療安全の進むべき姿を求めて―」

会 長 綜合病院山口赤十字病院 院長 名西 史夫

開催日 平成28年11月12日(土) 13:00~17:00

会 場 山口県総合保健会館(山口市吉敷下東3丁目1番1号)

内 容 ・講演

- (1) 医療安全は『人』の理解から ~ある医療事故・事故調査の教訓~ 日本赤十字社九州ブロック血液センター所長 入田 和男 先生
- (2) イマドキの手指衛生

健和会大手町病院副院長 山口 征啓 先生

・一般演題発表・ポスター発表・パス発表

【お問い合わせ先】綜合病院山口赤十字病院 企画第1課 電話083-923-0111(代表)

病院協会の主な行事予定

○10月25日 中堅看護師研修会 (会場:山口県総合保健会館)

○11月18日 第4回理事会 (会場:新山口ターミナルホテル)

○11月30日 看護師長研修会 (会場:山口県総合保健会館)

○12月9日 第3回情報管理委員会 (会場:新山口ターミナルホテル)

○12月14日 看護補助者・介護職員研修会 (会場:山口県総合保健会館)

○1月7日 新年互礼会 (会場:ホテルニュータナカ)

○1月27日 四県病院協会連絡協議会 (広島市)

編集後記 やはり地球温暖化の所為でしょうか?この異常気象は◆とにかく例年と暑さが違った夏。台風が来ないなあと思っていたら、集中的に3つも4つも。それに通り道は関東以北。東北・北海道にこれだけ被害をもたらした台風が今まであったのでしょうか?被害に遭われた方には心よりお見舞い申し上げます◆さて、われわれ医療界では、例の地域医療構想の調整会議が始まります。厚労省の示す目標値は本当に「現場の医療」を考慮したものなのでしょうか◆また医療経営講習会では、今年3月まで山口県健康福祉部におられた厚労省の國光文乃氏から「今後の医療政策の方向について」の貴重なお話をお聞きしました◆この中で、消費税アップが先延ばしになったことによる社会保障費の財源不足にも触れられて、次期診療報酬改定ではさらに厳しさが増すことを強調されました◆ともあれ、限られた報酬の中で生き残るためには自院の努力もさることながら、あらゆる場面での連携が求められます。知恵を絞って気を引き締めて頑張りましょう! (水田英司)